

富岡市長賞 佳作

お年寄りを助ける「税」

北中学校 3年 加賀屋 汐里

私の目の前に広がる風景、それは普段目にしたことのない、不思議な風景であった。どこを見てもお年寄り。私は、この国の高齢化という事実を一度に見せつけられたような気がした。

私が学校の勤労体験で地域の老人保健施設を訪れたのは、今年の秋のことだ。そこには思っていたよりもずっと多いお年寄りの姿があり、皆が介護サービスを受けていた。介護士の方々は笑顔でお年寄りの手伝いをしていた。私が任された仕事は、お風呂から出た方へのドライヤー、昼食配りなど。始めは、慣れないお年寄りとの触れ合いに戸惑ったが、だんだん楽しくなってきた。お年寄りから「ありがとう」と言われると、心の底から温まったような気がした。私は、笑顔のお年寄りが多いことに気づいた。

40歳を過ぎた母が、いつかこのようなことを教えてくれた。40歳になると、介護保険料というものが取られるようになる。私は、その介護保険料というものが何なのか、くわしく調べてみることにした。高齢化社会対応策の一環として、満40歳以上で介護を必要とする人を対象に、保険料を徴収し公的な保険医療や福祉サービスを提供する、という制度があるそうだ。40歳から保険料を払っておくことで、介護サービスが必要になった時の自己負担費用が1割となるらしい。40歳から払い始める一つの税金、ということだ。

私は、老人保健施設で百歳を過ぎた、というおばあちゃんに出会った。もう何年もこの施設で過ごしている、と言っていた。笑顔のかわいい、とても元気なおばあちゃんだ。私は、そう何年も施設にいるのでは、家族の費用負担も大きいだろうと思っていたが、税によって援助されているおかげで、何年も介護サービスを受けられているようだ。

税について、私は考えたことがなかった。むしろ、難しいことだと感じ、特に気にしないようにしていた。しかし、私達子供も消費税ならば払っている。近頃、消費税を上げるべきではないか、という意見も耳にする。私達子供も、そういった小さなことからでも税に興味を持った方が良いのではないかと私は思う。私達中学生、15歳ならば後5年で大人と呼ばれるようになり、税を払い、社会を担う一つの存在になるからだ。

私は今日、介護保険制度について調べてみて思った。お年寄りがたくさんいる、高齢化した日本。しかし、そのお年寄り一人一人が元気に老後を過ごしてほしい、と私は思う。万が一、介護状態になった時にはこの制度を利用することで、その方はもちろん、家族までの多くの人の負担が少しでも減ってほしいと願っている。

おじいちゃん、おばあちゃんの笑顔が一つでも増えてくれますように……。